

「函館とハリファックスの姉妹都市交流—その推進・改善策を探る」

① 背景、目的、概要

私たちのプロジェクトはカナダのハリファックス市と函館市の姉妹都市交流を活発にし、そこから地域の活性化を図ろうという目的で活動してきました。背景としては、現在、函館市とハリファックス市の交流が、もみの木を送ってもらっているだけでこちらから何もお返ししていないこと、函館にもハリファックスにもお互いの協会があり活動しているため、協会の方達の協力をいただいて私たちが何かしたいと思った背景がありました。まず、函館市民がどれくらいハリファックスについて知っているのか、また市民レベルでの交流は何かあるのかを調査し、その結果から活動内容をしばって行きました。

② 年間スケジュール表

後期（2015年9月から）

10月 履修者決定。プロジェクト始動。

22日 函館・ハリファックス協会役員会議参加

24日 地球まつりの協会ブースのサポートと見学

11月 情報収集期間インタビュー等)、パーティ準備

18日 函館ハリファックス協会役員会参加

12月 クリスマスパティーでの発表準備、反省会

5日 函館・ハリファックス協会クリスマスパーティー

1月 中間発表準備

24日 地域プロジェクト中間成果発表会

前期（2016年4月から）

4月 市役所・図書館訪問、情報収集と企画の立案

5月 企画の情報集め等

21日 ロワジールホテルにて函館・ハリファックス協会総会と懇親会参加

6月 企画の情報集め等

セント・メリーズ大学の教授と連絡を取り始める

オールド・タウン・クロック視察

ハリファックス市の森を視察

7月 最終発表準備

16日最終発表

③プロセスと成果

まず本プロジェクトでは、これまでに行われてきた、函館とハリファックス間の姉妹都市交流事業を様々な観点から調査し、その結果と改善点を探り、私たちでも実行可能な事業の考案をすることにしました。

まずひとつに、図書館を通じた交流です。以前にも函館市中央図書館とハリファックス中央図書館との本の寄贈を相互に行ったこともあり、私たちが函館市中央図書館と連携し、もう一度この事業を実施してみようと考えました。しかし、以前にこの事業を行った時の結果から、本と本の交換だけだと、交流とは言えないのではないか、という結論に至り、私たちは人と人の心が通った「生きた交流」を実施していきたいと考えました。

それから「生きた交流」をコンセプトに、ハリファックス市にある、函館校と姉妹校提携をしているセント・メリーズ大学の学生と SNS 等を通して交流をするという案を出しました。まずハリファックスの人々に函館のことを知ってもらい、私たちはハリファックスのことをもっと知る必要があると考え、学生同士でお互いの街の魅力を伝えあってみたらよいのではないかと考えました。さっそく実施しようと、セント・メリーズ大学の教授とメールでコンタクトを取り、その教授にも関心を抱いていただいたのですが、ちょうどカナダの学生たちは長期の学期間休暇中で本プロジェクトの間に実施することはできませんでした。

④総括と反省・今後の課題

国を越えた交流事業ということで、私たち学生の方ではどうにも手が及ばない部分が多く、なかなか行動に移すまでが難しかったように感じました。その中で、私たち若い世代にもできることを模索し、現代社会において急速に普及する SNS 等に目をつけ、私たちの長所を活かせるアイデアを生み出すことができたことはよかったです。ただし、反省点としてはそのアイデアを生み出すのに時間がかかってしまったということです。メンバーで集まって話し合いを行い、アイデアを出し合ってきたのですが、他の講義等でうまく全員が集まることができなかつたりした時が何度かあり、行動が遅くなってしまったことが反省点として挙げられます。

今後の課題としては、まず今期にできなかった学生同士の SNS 等を使った交流を行い、お互いの街のことを知って、そこから発展して、その学生たちと話し合いをする中で、「生きた交流」をより深く進めていけたら良いと私たちは思います。

⑤地域からの評価

今回、私たちのプロジェクトは主にお世話になった函館・ハリファックス協会の方々から「若者の視点から姉妹都市交流を考えてほしい、そして何か活性化につながるアイデアを」という言葉をいただき、2015年度後期から2016年度前期の期間活動しました。

この期間で2度、函館・ハリファックス協会の会員の方々に活動報告を発表する機会をいただき、昨年12月のクリスマスパーティーの発表の際は、「現実問題として、実行可能かは別としていいアイデアがた

くさんある」、「SNS を活用するというアイデアは若者らしい」「アイデアの中から1つでもいいから、実行に移し成果をあげてほしい」などといった前向きな評価を多くいただきました。

今年の5月に行われた函館ハリファックス協会の総会・懇親会での発表に対しては、「ここまでの段階で1つはアクションを起こしてみてほしかった」という厳しいお言葉をいただきつつも、「学生同士が交流するのは、非常にいいアイデア」、「ぜひ実行してほしい」といった私たちの活動に期待し、応援して下さる声もたくさんいただきました。

7月に行われた成果発表会を見に来てくださった会員の方からは、「君たちの代での活動実行はかなわなかったが、ぜひ次につなげてほしい。難しい問題にも一生懸命よく取り組んでくれた」というねぎらいの言葉をいただきました。

大きな成果をあげることはこの2学期を通してできませんでしたが、私たちの活動に期待し応援して下さっている方々のためにも、私たちが土台をつくった活動が来期に実行され、成果を出せたらと思います。

⑥メンバー

担当教員 杉浦清志

生徒 加藤久瑠実 飯塚大貴 今堀颯紀 上山莉子 飯澤桃子 堀内聖滯 佐々木峻 斉藤唯

